

## 第 223 回 FS 委員会議事録

### 1) FS-1168-09 東京湾臨海大橋(仮称)の概要と上部構造における技術

国土交通省東京港湾事務所 千葉 照男

(財)港湾空港建設技術サービスセンター 町田 文孝

東京港臨海道路の東京港第三航路を跨ぐ東京港臨海大橋(仮称)は、主橋梁部が橋長 760m の鋼 3 径間トラス・ボックス複合構造、アプローチ部が橋長 352m と 506m の連続鋼床版箱桁構造で構成されている。本橋を施工するうえで導入された技術として、高強度且つ製作性に優れる橋梁用高性能鋼材(BHS 鋼材)の使用、死荷重強度が高いトラス構造に対して合理的な設計が可能な LRFD(荷重抵抗係数設計法)を部分的に採用、接合部の鋼重低減や塗膜の耐久性向上が図れる現場溶接構造の多用、および疲労耐久性を鑑みた鋼床版構造の採用などがある。これらの概要について報告した。

LRFD、腐食対策、断面及びスパンの決め方、犠牲鋼板のすべり、Uリブの溶け込み量、BHS 鋼の溶材、HSS のとり方等について質疑があった。